

第 31 回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の本学創立百周年を記念した篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて、卓越した成果を収めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

【学術・文化の分野（団体）】

栗原夏海 小林万祐 小鬼澤和彰 安部涼平	経済学部 3年 法学部 3年	毎年開催される日本銀行主催の「第13回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～」において、投稿した論文が、「奨励賞」を受賞した。全国から応募のあった112編の応募論文の中から、決勝進出5編に次ぐ上位にランクされた。
浅川瑛里菜 西岡弘貴 笠間幸恵	経済学部 3年 商学部 3年	株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所主催の通信分野のビジネスコンテストである「第2回ドコモ近未来社会学生コンテスト」において、全国から応募があった69校の中から、最終審査会に進出する9校に選ばれ、「奨励賞」を受賞した。
総合政策学部 専門演習B29調査班 會田野乃花 他共同者 11人	総合政策学部 3年	日本全国にあるB29の慰霊碑をリサーチしたルポルタージュ「日本全国B29慰霊碑物語」が「外国特派員協会ジャーナリズム奨学金 写真部門」で1位入賞した。この「日本全国B29慰霊碑物語」は、中央評論299号に特集として掲載された。

【学術・文化の分野（個人）】

吉田 緑	法学部 通信教育課程 5年	日本刑事政策研究会懸賞論文（読売新聞社共催）にて、優秀賞に選ばれた。また、当該論文は3月下旬に日本刑事政策研究会ウェブサイトと『罪と罰』55巻2号に全文掲載される。
高尾 美 鈴	大学院経済学研究科 修士課程 経済学専攻	2017年日本地域学会第54回年次大会における学会発表「共分散構造分析を用いた消費者間の異質性に関する分析」が優秀発表賞を受賞した。
望月 優 志	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 数学専攻	日本統計学会スポーツ統計分科会の主催する第6回スポーツデータ解析コンペティションにおいて、サッカーのトラッキングデータからの機械学習による識別モデルの提案により優秀賞を受賞した。また、日本スポーツアナリスト協会の主催する第3回スポーツアナリティクス甲子園において、観客動員数の予測モデルと施策提案により優秀賞を受賞した。
只見 侃 朗	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	「広域な深海底下探査を可能にする、ミミズの蠕動運動を規範とした埋没型掘削ロボット」の新たな機構をJAMSTECやJAXAなどの研究機関と協力し、開発に大きく貢献している。 The 20th International Conference on Climbing and Walking Robots and Support Technologies for Mobile Machinesにて投稿83件中1件となる CLAWAR2017 Association Best Technical Paper Award および Winner of the Industrial Robot Innovation Award を受賞した。また、日本財団と株式会社リバナスの共同事業であるリバナス研究費日本財団海底探査推進特別賞について約30件の内4件となる採択者に決定した。
天川 貴 文	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	航空機機体面検査自動化のためのホロノミック全方向移動可能な壁面移動ロボットを提案し、そのロボットの有用性を走行実験により示した。 The 20th International Conference on Climbing and Walking Robots and Support Technologies for Mobile Machines にて CLAWAR2017 Winner of the Industrial Robot Innovation Award を受賞した。
飯川 伸 吾	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	空気圧を用いたロボットのポータブル化を目的とした、携帯可能空気圧源の開発のための空気圧生成手法が The 10th JFPS International Symposium on Fluid Power において166件の論文の中から3件のみ選ばれる JFPS Best Student Paper Award を受賞した。
毛利 駿	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	腰部への負荷の小さい持ち上げ姿勢への矯正とそれによる腰痛対策を目的とした、生体工学に基づいた新型アシスト手法を有する、人工筋肉を用いた高出力型パワーアシストスーツの開発により The 26th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication において約330本の投稿論文の中の上位3名として RO-MAN2017 BEST PAPER AWARD FINALIST を受賞した。
森 誠 史	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	修士研究が公益社団法人自動車技術会大学院研究奨励賞を受賞した。 また、「警告レベルに応じた和音を用いた警告音の提案」を2017年9月の日本音響学会にて講演発表した。
渡邊 晃 平	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	既存のCO ₂ 吸収材である Li ₄ SiO ₄ に自己発熱機能を持たせた新しい CO ₂ 吸収ユニット: Si/SiO ₂ /Li ₄ SiO ₄ の作製技術を開発し、同時にその吸収特性を明らかにした研究により、日本電子材料技術協会主催の第54回秋季大会において優秀賞を受賞した。
有谷 一 志	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	2017年11月開催、日本ポーラログラフ学会主催の第63回ポーラログラフイーおよび電気分析化学討論会にて「ノンイノセント性インジゴ誘導体配位子を有するルテニウム錯体の電気化学特性」のタイトルでポスター発表し、ポスター発表優秀賞を受賞した。
齋藤 涼	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	2017年8月に中国長春で開催された第16回国際電気分析化学シンポジウム (The Sixteenth International Symposium on Electroanalytical Chemistry) で「Electrochemical Study on Anticorrosion Coating by Ternary Composites of Graphene Oxide/Polydopamine/Alkyl Silane on Galvanized Steel Plate」のタイトルでポスター発表し、ポスター賞を受賞した。
佐々木 翔 大	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	光運動材料の二光子精密駆動に関する研究成果を学会で多数発表し、The 21th International Symposium on Advanced Display Materials and Devices において Poster Award を受賞した。 また、第3回「高次複合光応答」若手の会においては、優秀ポスター賞を受賞した。

中井 葉子	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	酸素バブルを放出しながら水中で自発的に走行する蛋白質マイクロチューブモーターの合成に成功し、高速カメラを用いて自走現象の詳細を解明するとともに、走行方向を磁石で誘導しながら、チューブ表面に大腸菌を効率よく捕捉させることを可能とした。 IUPAC 17th International Symposium on MacroMolecular Complexes において IUPAC MMC-17 Poster Presentation Award を受賞した。論文が Chem. Eur. J. 誌に掲載された (Chem. Eur. J. 2017, 23, 5044.)。
岡 翔太	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	日本化学会第7回CSJ化学フェスタ2017で「水素結合で連結した金属錯体超分子による単層カーボンナノチューブの選択的可溶化」として発表し、1073件中198件となる優秀ポスター発表賞を受賞した。 また、2017年9月に修飾分子のナノカーボン表面での配向の制御に関する論文をアメリカ化学会学術誌 Langmuir に発表した (Langmuir, 2017, 33(43), pp 11901-11910)。
満田 達也	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	金属錯体で連結した蛋白質ナノワイヤーおよびナノチューブの合成に初めて成功した。2つのターピリジル基を有するヒト血清アルブミンの水溶液に鉄イオンを添加すると、蛋白質からなるナノワイヤーが得られることを見出した。さらにその溶液を凍結乾燥すると、ワイヤーが中空シリンダー構造のチューブに変形することを明らかにした。 高分子学会主催の第66回高分子討論会において優秀ポスター賞を受賞した。また、日本化学会主催の第7回CSJ化学フェスタ2017において優秀ポスター発表賞を受賞した。
山田 将大	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	ラジカル性配位子を含む10族金属錯体が溶媒の極性により不均化反応を示すことを世界で初めて発見した。第67回錯体化学会討論会において460件中13件となるポスター賞を受賞した。 また、第7回CSJ化学フェスタ2017において1073件中198件となる優秀ポスター発表賞を受賞した。
船木 亮佑	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	完全合成型人工血液 (人工酸素運搬体) の合成に初めて成功した。遺伝子組換えヒトヘモグロビンを産生し、それを遺伝子組換えヒト血清アルブミンで包み込んだ遺伝子組換え (ヘモグロビン-アルブミン) クラスターを調製し、その構造と酸素結合能を明らかにした。得られた人工血液は血液型がなく、原料血液が不要で、いつでも誰にでも使用できるため、人類の健康医療に大きな貢献をもたらすものと期待される。 第24回日本血液代替物学会年次大会において優秀演題賞を受賞した。
小宮山 剛司	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	査読付き英語論文を3報発表した。うち1報は Synfacts 誌にハイライトされている。 第97回日本化学会春季年会では受賞率5%である優秀講演賞 (産業) を受賞した。 平成30年度より日本学術振興会特別研究員DC2への採用が内定している。

【体育の分野 (団体)】

陸上競技部	学生会体育連盟	・第86回 日本学生陸上競技対校選手権大会 (インカレ) 4×100mリレー 優勝 (5連覇)
フェンシング部	学生会体育連盟	・2017年度全日本学生フェンシング選手権大会 (インカレ) 男子団体サーブル 優勝 男子団体エペ 優勝
自転車競技部	学生会体育連盟	・第86回 全日本自転車競技選手権大会トラック・レース 男子4kmチーム・パシュート 優勝 ・第73回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会 (インカレ) 男子4kmチーム・パシュート 優勝

【体育の分野 (個人)】

長野 凌生	文学部 2年 (水泳部)	・第34回 日本身体障がい者水泳選手権大会 男子50m・100m自由形 (S13クラス) で、優勝 (2連覇)。100m自由形は日本新記録。 ・2017ジャパンパラ水泳競技大会 男子50m・100m自由形 (S13クラス) で、優勝 (2連覇)。50m・100m自由形とも日本新記録。
砂間 敬太	法学部 4年 (水泳部)	・ジャパンオープン2017 男子200m背泳ぎ 優勝 ・第93回 日本学生選手権水泳競技大会 (インカレ) 男子200m背泳ぎ・男子200m個人メドレー 優勝
村上 未紘	総合政策学部 4年 (自動車部)	・平成29年度全日本学生自動車連盟年間総合杯 女子個人 優勝
ヘンプヒル 恵	文学部 3年 (女子陸上競技部)	・第101回 日本陸上競技選手権大会 (混成競技) 七種競技 優勝 (3連覇) ・第22回 アジア陸上競技選手権大会 七種競技 銀メダル
安江 将史	法学部 4年 (ラクロス部)	・第8回 APLUアジアパシフィック選手権大会 優勝 (正ゴールキーパー)

第 25 回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を収めた者に授与するものです。

堀内 愛友	経済学部 4年	卒業論文「モンゴル牧畜経済における労働生産性の地域間格差に関する分析-回帰による要因分析と現地調査を通して-」 本研究では、22の日本語文献、18の英語文献の先行研究を丹念にレビューし、モンゴルの貧困問題と地域間格差、モンゴルの伝統・基幹産業である牧畜産業の変遷を概観した上で、モンゴル牧畜世帯における地域間経済格差の要因を明らかにする意義を明示している。 今後もモンゴルの小規模牧民の持続的な経営のあり方を見出す上で重要となりうる3つの課題として、1) 世帯間格差を分析するにあたり、現地にて多数の牧民の個票データを自ら収集すること、2) 世帯間経営規模格差の要因分析、3) 牧畜経営世帯の人的資本に関する分析、を導出している。さらなる実証分析は進学先の東京大学大学院新領域創成科学研究科での研究に期待したい。 本研究におけるモンゴルでの現地調査、並びに大学院受験への支援として、筆者は経済学部創立百周年記念奨学金を利用しており、本経済学部が目指すグローバル人材育成の好例としても評価できる。
原田 裕真 佐山 諒 金井 俊介 村山 翔	商学部	卒業論文「雇用削減と株式リターンの関係」 本論文では、企業の雇用調整に関するニュースが当該企業の株価にどのような影響を与えるかを分析している。2000年前後から日本の雇用環境は大きく変化しており、先行研究では雇用削減と株価の関係について1990年代まで分析されているものの、2000年以降の傾向を長期的に観察したものは見られないようである。そこで、本論文では2000年以降の雇用削減に関するニュースとそれに伴う株価の変化を5年おきに観察し、その傾向を分析している。 論文全体としてやや荒削りではあるものの、学生の分析に対する誠実な姿勢や発見事項の興味深さは、学部学生の研究として非常に高く評価できる。
蔵満 拓哉 北見 耀子 澁谷 果林 堀部 直也	総合政策学部	共同研究論文「奨学金の延滞問題について：教育投資に関する内部収益率の観点から」 本論文では、日本の奨学金制度が抱える延滞問題について、延滞発生要因を教育投資の内部収益率の観点から実証的に明らかにし、その結果に基づいて奨学金延滞を抑制するための仕組みを提言しており、全国の各大学の延滞率を利用したトービット推定による分析の結果、延滞率には進学先の偏差値の他、家計の経済状況や進学地域の就労環境、学費補助金制度の有無が強く影響することを明らかにした。 上記研究では、近年公開が始まったばかりのデータに対して時間と手間をかけて精緻に処理し、理論的な命題を実証可能な仮説へ移行させるための代理変数をうまく考え出している。それにより、従来はデータの制約から理論的な仮説や示唆にとどまっていたものを、実証的に明らかにした点で大きな貢献がある。その証左として、経済学の観点から社会問題を検証し、解決のための政策提言を行う2017年度「WEST論文研究発表会」において、専門家と行政官の2名による査読の結果、全68篇の論文の中で最も優れた分析を行った論文に与えられる「現状分析賞」を受賞している。また、同研究成果の一部を発表した総合政策学部の「リサーチ・フェスタ2017」では、「最優秀賞」を受賞しており、各所で非常に高い評価を得ている。

第 23 回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

金承華	大学院経済学研究科 博士課程後期課程 経済学専攻	論文「中国における森林政策の展開と課題ー森林環境保全と接続可能な森林資源利用の経済分析」 在学期間中幾多の学会報告、査読論文への投稿など精力的に研究活動を続けてきた。学会報告に関しては、日本応用経済学会、日本経済政策学会、日本地域学会をはじめ、計画的に報告を行い、中でも、2016年10月の新潟大学での日本地域学会第54回大会での報告（「中国における森林保全政策ー退耕還林政策の展開と課題」）において、報告者数十名の中から最優秀発表賞受賞を受賞する栄誉を得た。この受賞は、金承華氏の研究遂行能力の高さと、真摯な研究への態度を反映したものであり、本奨励賞に対して十分推薦に値するものである。
-----	--------------------------------	---

第 23 回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

中山 顕	法学部 3年 (陸上競技部)	<ul style="list-style-type: none"> ・第94回 東京箱根間往路大学駅伝競走予選会において、全体8位（日本人2位）となる59分36秒の好成績を記録した。 ・第94回 東京箱根間往路大学駅伝競走において、3区を全体6位となる1時間3分42秒を記録した。 ・第72回 香川丸亀国際ハーフマラソン大会において、15位（日本人8位）となる1時間2分30秒を記録した。これは、本学の学内記録を18年ぶりに更新する中大新記録である。
------	-------------------	---

第 21 回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であって、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

山田 泰之	理工学部 助教	論文「蠕動運動型混合搬送機による固体推進薬連続製造の検討」は、一般社団法人日本機械学会の日本機械学会論文集83巻850号（2017年5月22日発刊）に掲載され、空気圧人筋筋を用いて大腸の蠕動運動の動作を模擬した蠕動運動型混合搬送機を開発し、世界で初めてロケット用固体推進薬を連続かつ安全な製造方法で製造可能であることを示した点において優れている。本成果を元に2017年12月26日に、カーリットホールディングス株式会社の火薬製造施設内部にて、世界で初めて、連続的な製造方法で実組成火薬の捏和に成功した。 また、本論文で報告した蠕動運動型混合搬送機は以下に列挙する特願技術を利用・応用した研究開発による成果である。 特願2016-237120, 特願2016-237121, 特願2016-184533, 特願2016-188567, 特願2016-201836, 特願2016-122098
奥井 学	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 精密工学専攻	論文「Hybrid Pneumatic Source Based on Evaluation of Air Compression Methods for Portability」は、ロボティクス分野の有名学術誌「IEEE Robotics and Automation Letters」に掲載されるなど高い評価を得ている。他3件の学術論文、5件の国際会議への筆頭著者としての執筆に加え、国際会議「The 10th JFPS International Symposium on Fluid Power」では166件の発表から3件選出される「The Best Student Paper Award」を受賞している。 また、本研究内容に関して「流体圧アクチュエーター駆動システム、流体圧アクチュエーター駆動用圧力源及び流体圧アクチュエーター駆動駆動方法（特願2016-107786号）」や「ジャミング転移を用いた装着具固定方法（特願2017-052685）」をはじめ特許を4件出願しており、新規性を有している。

第 21 回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、都市環境学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部都市環境学科及び大学院理学研究科都市環境学専攻に在籍をする学生であって、都市環境学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

陳 希	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 都市環境学専攻	修士論文「使用済みRO膜のアップグレードリサイクル技術開発とその活用～RO膜へのナノ粒子コーティング技術の開発～」は、使用済みの海水淡水化膜（RO膜）のリサイクルに関するものである。使用済みRO膜は、年々廃棄量が増加する中、ほとんどが埋め立てもしくは不法投棄されているのが現状である。これまでも使用済みRO膜をUF膜やMF膜としてカスケード利用する研究例は散見されるが、本研究では新たに使用済みRO膜表面に銅ナノ粒子を強固に保持する技術を開発し、さらに銅ナノ粒子保持膜の耐汚染性能を詳細に検討したことにより、これまで経済的に表現が困難であった使用済みRO膜のリサイクルを、経済的、技術的に可能であることを示した点において、極めて優れた研究である。 推薦者は、国際環境人材育成プログラムにより都市環境専攻に入学したため、来日当初は日本語が不自由だった。しかしながら、授業や実験の合間に語学の勉強に励み、最終的には修士論文発表会において、日本語での発表ならびに的確な質疑応答を行うまでに成長している点についても特筆したい。 本論文で得られた結果は極めて新規性および進歩性の高い結果であると判断されたため、単願で特許を出願することを検討している。
金枝上 英明	理工学部 4年	卒業論文「山間地と平地における住民の避難行動特性の比較」では、中山間地の土砂災害と平地の洪水時における住民の避難行動について、自ら被災地へ足を運び、住民の方から聞いた話を取りまとめ、適確な避難行動を促す情報について検討した結果、発表会において最も優れた発表を行ったとの評価を得ている。金枝上氏は成績優秀で、同級生からの信頼も厚い勤勉な学生であり、土木・都市環境同窓会の活動に積極的にに関わり、就職懇談会の運営等の学内で開かれる催しの準備を率先して行う等、学科運営においても統率力を持って活躍している。上記の様に、周りの学生の模範となるような同君の探究心・行動力や学問を追求する姿勢は見事であることから、茨木龍雄学術奨励賞の候補者として推薦する。

第 21 回 久保田昭夫・久保田紀昭女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏及び久保田紀昭氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、学生会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

岩田 優奈	法学部 2年 (女子陸上競技部)	<ul style="list-style-type: none"> ・第101回 日本陸上競技選手権大会 女子400m 優勝 ・2017日本学生陸上競技個人選手権大会 女子400m 優勝 ・天皇賜杯第86回 日本学生陸上競技対抗選手権大会 女子400m 優勝 ・第4回 日本乾溜陸上競技大会 女子400m 優勝
江村 美咲	法学部 1年 (フェンシング部)	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年フェンシングワールドカップアメリカ大会 女子サーブル個人 2位 ・2017年フェンシングアジア選手権大会 女子サーブル個人 3位 <li style="padding-left: 20px;">女子サーブル団体 3位 ・第29回 ユニバーシアード競技大会 女子サーブル個人 3位 <li style="padding-left: 20px;">女子サーブル団体 優勝

第 64 回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

【優秀団体部門賞】

自動車部	<ul style="list-style-type: none"> 全日本学生ジムカーナ選手権大会 女子団体の部 (2連覇) 優勝 全日本学生自動車運転競技選手権大会 女子団体の部 優勝
フェンシング部	<ul style="list-style-type: none"> 全日本学生フェンシング選手権大会 (全日本大学対抗選手権大会) エペ 優勝 サーブル 優勝 第67回 全日本大学フェンシング王座決定戦 男子サーブル団体 優勝 関東大学対抗フェンシング選手権大会 サーブル (2連覇) 優勝

【努力団体賞】

バレーボール部	<ul style="list-style-type: none"> 東日本バレーボール大学男子選手権大会 優勝
弓道部	<ul style="list-style-type: none"> 第65回 全日本学生弓道選手権大会 (インカレ) 男子団体戦 優勝
ボート部	<ul style="list-style-type: none"> 第44回 全日本大学選手権大会 (インカレ) 男子舵手なしフォア (2連覇) 優勝
拳法部	<ul style="list-style-type: none"> 日本拳法 第30回全国大学選抜選手権大会 優勝 日本拳法 第3回東日本大学女子リーグ戦 優勝
女子卓球部	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度 春季関東学生卓球リーグ戦 優勝
軟式野球部	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度 東都学生軟式野球 春季リーグ戦 優勝

【努力団体部門賞】

自転車競技部	<ul style="list-style-type: none"> 第56回 全日本学生選手権チームロードタイムトライアル大会 優勝 原井 博斗 (法4)、高橋 優斗 (法3)、直井 駿太 (経3)、今村 駿介 (法2)
--------	--

【リレー賞】

陸上競技部	<ul style="list-style-type: none"> 関東学生陸上競技対校選手権大会 男子4×100m 優勝 川上 拓也 (法4)、竹田 一平 (経3)、日吉 克実 (文4)、染谷 佳大 (法1) 天皇賜盃第86回 日本学生陸上競技対校選手権大会 男子4×100m (5連覇) 優勝 川上 拓也 (法4)、竹田 一平 (経3)、日吉 克実 (文4)、染谷 佳大 (法1) 日本陸上競技選手権大会 男子4×100m 優勝 川上 拓也 (法4)、竹田 一平 (経3)、大久保 公彦 (文2)、染谷 佳大 (法1)
自転車競技部	<ul style="list-style-type: none"> 第86回 全日本自転車競技選手権大会 4kmチームパーシュート 優勝 原井 博斗 (法4)、高橋 優斗 (法3)、今村 駿介 (法2)、橋本 陸 (商2) 文部科学大臣杯 第73回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会 4kmチームパーシュート 優勝 原井 博斗 (法4)、高橋 優斗 (法3)、今村 駿介 (法2)、橋本 陸 (商2)

【優秀選手賞】

砂 間 敬 太	法学部 4年 (水泳部)	<ul style="list-style-type: none"> 第93回 日本学生選手権水泳競技大会 (インカレ) 200m個人メドレー 優勝 200m背泳ぎ (2連覇) 優勝
長 野 凌 生	文学部 2年 (水泳部)	<ul style="list-style-type: none"> 2017ジャパンパラ水泳競技大会 50m自由形 (S13クラス) 日本新記録 (2連覇) 優勝 100m自由形 (S13クラス) 日本新記録 (2連覇) 優勝
大 本 里 佳	法学部 2年 (水泳部)	<ul style="list-style-type: none"> 第29回 ユニバーシアード競技大会 女子4×200m自由形リレー 3位
村 上 未 紘	総合政策学部 4年 (自動車部)	<ul style="list-style-type: none"> 全日本学生ジムカーナ選手権大会 女子個人の部 (2連覇) 優勝 全日本学生自動車運転競技選手権大会 女子小型乗用個人の部 優勝 全日本学生自動車連盟 年間総合杯 女子個人 優勝
渡 邊 裕 斗	商学部 2年 (フェンシング部)	<ul style="list-style-type: none"> 第29回 ユニバーシアード競技大会 男子サーブル団体 8位 男子サーブル 日本代表 関東学生フェンシング選手権大会 サーブル 優勝
江 村 美 咲	法学部 1年 (フェンシング部)	<ul style="list-style-type: none"> 第29回 ユニバーシアード競技大会 女子サーブル団体 優勝 女子サーブル個人 3位
向 江 彩 伽	理工学部 1年 (フェンシング部)	<ul style="list-style-type: none"> 第29回 ユニバーシアード競技大会 女子サーブル団体 優勝 女子サーブル個人 日本代表
へんぷヒル 恵	文学部 3年 (女子陸上競技部)	<ul style="list-style-type: none"> 第101回 日本陸上競技選手権大会 七種競技 (3連覇) 優勝 第 29回 ユニバーシアード競技大会 七種競技 日本代表 第 96回 関東学生陸上競技対校選手権大会 女子七種競技 (3連覇) 優勝
岩 田 優 奈	法学部 2年 (女子陸上競技部)	<ul style="list-style-type: none"> 第101回 日本陸上競技選手権大会 女子400m 優勝 天皇賜盃第86回 日本学生陸上競技対校選手権大会 女子400m 優勝 第96回 関東学生陸上競技対校選手権大会 女子400m (2連覇) 優勝 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子400m 優勝
高 橋 優 斗	法学部 3年 (自転車競技部)	<ul style="list-style-type: none"> 第86回 全日本自転車競技選手権大会 スクラッチレース 優勝

今村 駿介	法学部 2年 (自転車競技部)	・第86回 全日本自転車競技選手権大会 トラック・レース 男子エリート30kmポイントレース (2連覇) 優勝 ・2017年UCIトラックワールドカップ 男子4000m団体追抜 (日本新記録) 2位 ・第38回 アジア自転車競技選手権大会 男子4000mチームパーシュート 優勝 3分57秒801 アジア新記録 日本新記録
五十嵐 優	法学部4年 (バドミントン部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 混合団体 2位 男子シングルス 3位
川端 祥	商学部 4年 (バドミントン部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 混合団体 2位
大関 修平	商学部4年 (バドミントン部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 混合団体 2位
山本 怜	文学部 4年 (女子卓球部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 団体 2位 女子ダブルス 優勝

【体育賞】

舟津 彰馬	経済学部 2年 (陸上競技部)	・天皇賜盃第86回 日本学生陸上競技対校選手権大会 男子1500m 優勝
定松 祐輔	文学部 4年 (卓球部)	・第84回 全日本大学総合卓球選手権大会 (個人の部) 男子ダブルス 優勝
宮本 幸典	文学部 4年 (卓球部)	・第84回 全日本大学総合卓球選手権大会 (個人の部) 男子ダブルス 優勝
廣瀬 正典	経済学部 3年 (自動車部)	・全日本学生ジムカーナ選手権大会 男子個人の部 優勝 ・全日本学生自動車連盟 年間総合杯 男子個人の部 優勝
川谷 勢矢	法学部 4年 (自動車部)	・全日本学生自動車運転競技選手権大会 男子小型乗用個人の部 優勝
刺田 ゆりな	文学部 3年 (自動車部)	・全日本学生自動車運転競技選手権大会 女子小型貨物個人の部 優勝
白井 寛夢	法学部 4年 (フェンシング部)	・全日本学生フェンシング選手権大会 (全日本学生個人選手権大会) サープル 優勝
五島 莉乃	経済学部 2年 (女子陸上競技部)	・第35回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会 第1区 区間賞
松尾 侑宇太	商学部 4年 (重量挙げ部)	・第63回 全日本学生ウェイトリフティング個人選手権大会 85kg級 優勝 ・第45回 東日本大学対抗ウェイトリフティング選手権大会 85kg級 優勝
望月 大輝	法学部 4年 (重量挙げ部)	・第63回 全日本学生ウェイトリフティング個人選手権大会 94kg級 優勝

【努力賞】

武智 洸史	法学部 4年 (バレーボール部)	・第36回 東日本バレーボール大学選手権大会 最優秀選手賞
大和田 秀俊	法学部 4年 (硬式庭球部)	・平成29年度関東大学テニス選手権大会 優勝
諸田 実咲	法学部 1年 (女子陸上競技部)	・第96回 関東学生陸上競技対校選手権大会 女子棒高跳 優勝
山根 将太	商学部 2年 (自転車競技部)	・第58回 全日本学生選手権トラック自転車競技大会 男子ケイリン 優勝
原 勇輝	法学部 2年 (重量挙げ部)	・第14回 全日本ウェイトリフティング選抜大会 77kg級 優勝
清水 春香	文学部 3年 (射撃部)	・関東学生スポーツ射撃選手権 春季大会 10mS40W 優勝 ・東日本学生スポーツ射撃選手権大会 10mS40W 優勝
小山 真菜美	商学部 3年 (射撃部)	・日本学生選抜スポーツ射撃競技大会 10mS40W 優勝
森田 彩音	法学部 2年 (女子卓球部)	・平成29年度春季関東学生卓球リーグ戦 殊勲賞
福富 旅史	総合政策学部 3年 (軟式野球部)	・平成29年度東都学生軟式野球 春季リーグ戦 最高殊勲選手賞

【特別賞】

石川 祐希	法学部 4年 (バレーボール部)	<ul style="list-style-type: none"> ・全日本バレーボール大学男子選手権大会3連覇の立役者 ・全日本男子のエースとしてバレーボール界を牽引 ・FIVBワールドリーグ2017 第2位 ・男子世界選手権アジア最終予選 優勝 ・第19回 アジア男子選手権大会 優勝 MVP賞 ・ワールドグランドチャンピオンズカップ2017 第6位
-------	---------------------	--

【学長賞・優秀選手賞】

砂間 敬太	法学部 4年 (水泳部)	岩田 優奈	法学部 2年 (女子陸上競技部)
長野 凌生	文学部 2年 (水泳部)	高橋 優斗	法学部 3年 (自転車競技部)
大本 里佳	法学部 2年 (水泳部)	今村 駿介	法学部 2年 (自転車競技部)
村上 未紘	総合政策学部 4年 (自動車部)	五十嵐 優	法学部 4年 (バドミントン部)
渡邊 裕斗	商学部 2年 (フェンシング部)	川端 祥	商学部 4年 (バドミントン部)
江村 美咲	法学部 1年 (フェンシング部)	大関 修平	商学部 4年 (バドミントン部)
向江 彩伽	理工学部 1年 (フェンシング部)	山本 怜	文学部 4年 (女子卓球部)
ヘンプヒル 恵	文学部 3年 (女子陸上競技部)		

【学長賞・特別賞】

石川 祐希	法学部 4年 (バレーボール部)
-------	---------------------

【学長賞・永年監督賞】

松山 繁	バスケットボール部
------	-----------

第 35 回 学員会会長賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて特に優秀な成果を収めた者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

吉田 沙織 他 4 名	法学部	公益財団法人トラスト未来フォーラム主催の第4回学生懸賞論文の審査において、第2位に選ばれた。トラスト未来フォーラムでは、「急速に変化する世の中と金融機関の将来ビジョン」をテーマとしており、当論文は「超高齢社会における高齢者支援のありかた―地域市民や学生と連携する金融機関―」と題して執筆し、審査員からは「2次文献に頼らず、ヒアリング調査を行い、それを素材に現実感ある提案につなげた論文となっている。」と評価されている。
ボランティアセン ター 公認 学生団体 チーム女川	法学部 (学生部ボランティアセン ター)	チーム女川は、宮城県牡鹿郡女川町に出向き、自分の目で見てくることにより、甚大な被害をもたらした災害に対する知識を得る共に、現地での復興に向かっている現状を広く伝える活動をしている。震災から7年が経過しようとしている中でも、女川町の地域住民とのコミュニケーションを継続して実施しており、女川町観光協会などと共に行政や商店街での祭りでの海鮮焼きで女川町の現状や魅力を発信し続けている。これらの活動は女川町民との連携が取れているからこそ実施できているものであり、他大学が撤退していても、被災地に愛され、活動を継続していることは高く評価できる。
ボランティアセン ター 公認 学生団体 チームくまもと	法学部 (学生部ボランティアセン ター)	チームくまもとは、2016年4月の熊本地震発生後、熊本や九州出身の学生を中心に結成され、コミュニティ支援、学習支援を継続して実施している。熊本現地での学生ボランティア活動は地元の大学や福祉系の大学の数校のみが実施しているだけであり、首都圏の大学が被災地まで継続して出向いているのは例がなく、被災者と直接向き合い課題解決に向けて、学生ならではの活動を実施しており、対外的に高い評価を受けている。なお、2017年度の活動は、赤い羽根「ボラサポ九州」に採択され、現地での活動を行っている。高齢者、大人、子供との間に入り、地域コミュニティの運営を果たしている役割は大きく、対外的にも高い評価を受けている。
和田光平ゼミ チーム KiXs	経済学部	チームKiXsは、子どもがいながら離死別したシングルマザーに対して、「ステップファミリー」に関するセミナーを行いながら再婚マッチング活動を支援することで、再婚後の家族形成のトータルケアを目指すという事業を提案し、非常に高く評価され、中央大学野島記念Business Award2017において優勝を受賞した。
佐々木創ゼミ	経済学部	関東最大の学生発表会である「第57回日本学生経済ゼミナール関東部会（インナー大会）」のプレゼンテーション部門において審査員賞を受賞した。当該研究は、ベトナム・ダナン市において、ゴミから有価物を拾って生活しているウェイストピッカーが、分別政策の推進により失業の危機にあることに着目し、廃棄物を再利用した土産物を製造することで、ウェイストピッカーに安定的な雇用を創出できることをアンケートやヒアリング調査から実証したものである。当該研究は、これに先立って実施された中央大学経済学部ゼミナール大会でも優勝しており、学内大会のレベルの高さを示し、学内のゼミ活動の活性化に繋がり、経済学部の広報効果としても高く評価できる。

山本 周平	理工学部 4年	山本氏の学業は、学科創設以来最高であり極めて優秀であることに加え、3年生時点で脳科学の研究により文科省主催のサイエンスカンファレンスにおいて発表を行い、成果を学会発表するに至った。これらの成果は本人の資質・努力に負うところが大きく評価される。
ボランティアセンター 公認学生団体 チーム はまらいんや	文学部 (学生部ボランティアセンター)	はまらいんやは、2011年12月から気仙沼市でのコミュニティ支援を継続して実施している。震災から7年が経過しようとしている中でも、被災地まで継続して出向き被災者と直接向き合うことで、現地のニーズに合うイベントを実施しており、行政や医療機関では行き届かない心のケア支援であるため、対外的に高い評価を受けている。2017年夏季期間の活動は、Yahoo!基金の夏休み「学生ボランティア」被災地復興活動支援助成プログラムの助成を受けて活動を行った。
小貫 寛哲	総合政策学部 4年	エッセイ「日本とインドネシアの新しい関係～価値あるインドネシアの寛容～」は、これまでゼミのインドネシア研究で感じてきた、日本とインドネシアのあるべき姿をインドネシア語でまとめたものであり、インドネシア語の「エッセイコンテスト (Lomba Penulisan Essay)」において最優秀賞を受賞した。本研究では、実際に首都ジャカルタなどでの調査を行い、インドネシア人の暮らしや思想理解を追求してきた。大使館職員からは、そのような草の根の意識や、それを形成した歴史の分析などの内容が高く評価された。
吉田 琴乃	総合政策学部 4年	2016年度全日本フラ選手権「ミズ・フラ・ジャパン・ソロ部門」で優勝。同大会はハワイの著名なアーティストの厳正な審査によるフラの全国大会であり、フラを通じてハワイの文化や歴史を伝えることを目的としている。また、審査員による面接の時間もあり、舞踊技術だけではなく、競技者の知識レベルも評価の対象となる。この大会での優勝が評価され、フジテレビ「めざましテレビ」の密着取材を受け、番組内「キラビト！」のコーナーに出演。趣味のフラと学業を両立させる日々の様子が全国放送 (2017年11月8日) で紹介された。
FLPジャーナリズムプログラム 松野良一ゼミ	全学連携教育機構	ゼミで制作した中央大学OB (元特攻隊員) の人生を描いたドキュメンタリー『後に続くを信ず～中央大学と戦争～』が「地方の時代」映像祭で奨励賞を受賞し高い評価をうけた。さらに『女学生と風船爆弾』も「那須国際短編映画祭」でノミネートされた。また、ゼミで制作しているCATV向け番組「多摩探検隊」(視聴可能世帯数約270万) の活動が、新聞などのマスメディアに取り上げられ中央大学の名声を高めた。
ボランティアセンター 公認学生団体 チーム 防災	総務部 (学生部ボランティアセンター)	チーム防災は、今後起こりうる災害に対して、自分の命と大切な人の命を守るように「防災、減災」の視点から「顔が見える関係を築き、自助・共助の力を高める」活動をしている。災害時に備え防災への認識を高める地域活動として、日野市の小、中、高等学校、自治会、日野市民フェア等において継続して実施し、大学近隣の防災、減災対策の推進に貢献した結果、日野市社会福祉協議会より3年連続の表彰を受けた。また、本学での防災・減災意識を高める研修や備蓄品配布を総務部・学事部・学生部と協力の上実施し、学内外での活動において顕著な功績を残した。
野島 記念 BusinessAward 実行委員会	学事部	本学主催ビジネスコンテストである野島記念BusinessAwardを着実に企画運営し、参加者から起業する者を輩出するなど基金設立者である野島廣司氏の篤志にも応える活躍をしている。本事業は実行委員会学生が1年をかけて企画運営を行っており、その貢献・功績は受賞者に比すべきものがある。特に今年度は賞金額を変更し新たな賞を創設するなど意欲的な取り組みが見られた。

【スポーツの分野 (個人)】

砂間 敬太	法学部 4年 (水泳部)	・第93回 日本学生選手権水泳競技大会 (インカレ) 200m個人メドレー 優勝 200m背泳ぎ 優勝 (2連覇)
長野 凌生	文学部 2年 (水泳部)	・2017ジャパンパラ水泳競技大会 50m自由形 (S13クラス) 優勝 (2連覇) 日本新記録 100m自由形 (S13クラス) 優勝 (2連覇) 日本新記録
大本 里佳	法学部 2年 (水泳部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 女子4×200m自由形リレー 3位
村上 未紘	総合政策学部 4年 (自動車部)	・全日本学生ジムカーナ選手権大会 女子個人の部 優勝 (2連覇) ・全日本学生運転競技選手権大会 女子小型乗用個人の部 優勝 ・全日本学生自動車連盟 年間総合杯 女子個人 優勝
渡邊 裕斗	商学部 2年 (フェンシング部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 男子サーブル団体 8位 男子サーブル個人 日本代表 ・関東学生フェンシング選手権大会 サーブル 優勝
江村 美咲	法学部 1年 (フェンシング部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 女子サーブル団体 優勝 女子サーブル個人 3位
向江 彩伽	理工学部 1年 (フェンシング部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 女子サーブル団体 優勝 女子サーブル個人 日本代表
ヘンプヒル 恵	文学部 3年 (女子陸上競技部)	・第101回 日本陸上競技選手権大会 七種競技 優勝 (3連覇) ・第29回 ユニバーシアード競技大会 七種競技 日本代表 ・第96回 関東学生陸上競技対校選手権大会 女子七種競技 優勝 (3連覇)
岩田 優奈	法学部 2年 (女子陸上競技部)	・第101回 日本陸上競技選手権大会 女子400m 優勝 ・天皇賜盃第86回 日本学生陸上競技対校選手権大会 女子400m 優勝 ・第96回 関東学生陸上競技対校選手権大会 女子400m 優勝 (2連覇) ・日本学生陸上競技個人選手権大会 女子400m 優勝
高橋 優斗	法学部 3年 (自転車競技部)	・第86回 全日本自転車競技選手権大会 スクラッチレース 優勝
今村 駿介	法学部 2年 (自転車競技部)	・第86回 全日本自転車競技選手権大会 トラック・レース 男子エリート30kmポイントレース 優勝 (2連覇) ・2017年UCIトラックワールドカップ 男子4000メートル団体追抜 2位 (日本新記録)
五十嵐 優	法学部 4年 (バドミントン部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 混合団体 2位 男子シングルス 3位

川 端 祥	商学部 4年 (バドミントン部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 混合団体 2位
大 関 修 平	商学部 4年 (バドミントン部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 混合団体 2位
山 本 怜	文学部 4年 (女子卓球部)	・第29回 ユニバーシアード競技大会 団体 2位 女子ダブルス 優勝
石 川 祐 希	法学部 4年 (バレーボール部)	・4年間全日本メンバー・中大の名声を高揚した

【スポーツの分野 (OB)】

飯 塚 翔 太 ミズノ株式会社	陸上競技部OB	・第16回 世界陸上競技選手権大会 (ロンドン) 男子400mリレー 3位
阿 部 慎 之 助 読 売 巨 人 軍	硬式野球部OB	・プロ野球通算2,000本安打 (プロ野球史上49人目/巨人では5人目)
塩 浦 慎 理 株式会社ナガセ イトマン東進	水泳部OB	・第17回 世界水泳選手権大会 (プタベスト) 男子4×100mリレー (日本新記録) 5位 男子4×100mメドレーリレー (日本新記録) 4位 男子 50m自由形 日本代表 男子100m自由形 日本代表
吉 田 圭 伸 自衛隊体育学校	スキー部OB	・第23回 オリンピック冬季競技大会 (平昌) スキー クロスカントリー男子 日本代表
蛭 沢 克 仁 ソニー生命保険 株 式 会 社	スキー部OB	・第23回 オリンピック冬季競技大会 (平昌) スキー クロスカントリー男子 日本代表監督
高 野 勇 太 東日本電信電話 株 式 会 社	ボート部OB	・全日本選手権大会男子エイト 優勝 (2連覇)
林 靖 晴 東日本電信電話 株 式 会 社	ボート部OB	・全日本選手権大会男子エイト 優勝 (2連覇)
室 谷 義 秀	航空部OB	・レッドブル・エアレース第2戦サンディエゴ大会 優勝 ・レッドブル・エアレース第3戦千葉大会 優勝 (2連覇) ・レッドブル・エアレース第7戦ラウジッツ大会 優勝 ・レッドブル・エアレース第8戦インディアナポリス大会 優勝 ・レッドブル・エアレース 年間総合優勝 (アジア人初)
笠 井 武 広 綜 合 警 備 保 障 株 式 会 社	重量挙げ部OB	・第77回 全日本ウエイトリフティング選手権大会 77kg級 優勝
西 本 拳 太 ト ナ ミ 運 輸 株 式 会 社	バドミントン部OB	・第29回 ユニバーシアード競技大会 混合団体 2位
山 下 敏 和 自衛隊体育学校	射撃部OB	・ISSFワールドカップ ファイナル大会 50mP60 7位
大 日 方 邦 子 株 式 会 社 電 通 パ ブ リ ッ ク リ レ ー シ ョ ン ズ		・第23回 パラリンピック冬季競技大会 (平昌) 日本代表選手団長
荒 井 秀 樹 株 式 会 社 日 立 ソ リ ュ ー シ ョ ン ズ		・第23回 パラリンピック冬季競技大会 (平昌) バイアスロン/クロスカントリー 日本代表監督

第 2 回 学員会会長奨励賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与する学員会会長賞に準ずる者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

山 野 内 智 也 他 3 名	経済学部	2017年12月5日、北海道中標津市で開催された北海道根室管内を対象とした「インカレねむろ・大学等研究モデル事業」において、現地の行政、観光関係者に対して「空港を活用したプレミアム観光」について、水陸両用の航空機を活用した遊覧飛行、チャーター便の活用を提言し、高い評価を受け、12月6日の『釧路新聞』の一面トップに取り上げられた。この事業プランは、瀬戸内シープレnzの支援を受け、来年度に中標津空港においてパイロットフライトを実施することが決定した。
--------------------	------	---

菅 井 夏 穂	理工学部 4年	水中で自由に動き回ることでできるカタラーゼ(酵素)マイクロチューブモーターの合成に世界で初めて成功した。温度変化により酵素活性を調節すると、自走速度を任意に制御することも明らかにした。このマイクロチューブは蛋白質のみから構成されるので、生分解性に優れ、生体適合性も高い。ドラッグデリバリーシステムなど医療分野への応用が期待されている。この卓越した成果は日本化学会第98春季年会、第67回高分子学会年次大会で発表される。
浅 井 謙 輔	理工学部 4年	・大学における学業成績および卒業論文「決定木によるドローダウン抑制を用いたポートフォリオマネジメントの提案」 ・公益財団法人日本アクチュアリー協会 アクチュアリー資格試験1次試験科目「数学」合格 ・浅井謙輔(2017):“VBAで山手線の座席シミュレーション”、五大学交流会(日本オペレーションズ・リサーチ学会研究発表会に準じた学部学生発表会) ・Bloomberg 第1回グローバル投資コンテスト参加
山 口 千 尋	理工学部 4年	情報工学全般の幅広い知識を習得し、大変優秀な成績を修めている。教育現場における情報工学の活用に関心を示し、教職課程にも積極的に取り組んでおり、情報工学を社会に役立てたいという強い気持ちを持ち社会とのかかわりを意識して学業に励む姿勢は、他の学生の模範となるものである。
森 谷 尚 子	理工学部 4年	大学における学業は極めて優秀であり、演習・実習においてもリーダーシップを発揮した。卒業研究において取り組んでいる日本人女性の乳癌予防に関する研究は今後の日本の乳癌発症リスクスコア推定の基礎となる成果であり、日本の予防医学に大きく貢献する成果を上げている。
辻 響 実	理工学部 4年	日本統計学会スポーツ統計分科会や統計数理研究所などが主催する、第7回スポーツデータ解析コンペティションにおいて、分析が優秀と評価され奨励賞を受賞することが決定している。様々な大学の研究者や大学院生、学部生などの参加全70チームの中から学部生での受賞は特筆すべきことである。
水 岡 優 貴	理工学部 4年	学部4年間を通して生命科学科内トップクラスの成績を維持した。卒業研究「ヒト型チューブリンをもつクラミドモナスの作出と解析」では、前例のない挑戦的な課題であるにもかかわらず、さまざまなチューブリン発現コンストラクトを作成、細胞に導入しその効果を多角的に検証するなど意欲的に取り組んだ。優れた問題認識能力と理解力に加え、協調性も高いことから研究室での指導的役割も果たすほど優れている。
本 木 耕 平 南 伸 昌	理工学部 4年 理工学部 4年	(公益社団法人)日本設計工学会主催及び(一般社団法人)電子情報技術産業協会 三次元CAD情報標準化専門委員会後援の設計コンテスト2017にて三位を受賞した。このコンテストはコンセプト造りから始め、設計仕様にも重点を置いた身近な外装ユニットを、JEITAが規定した普通幾何公差を活用して三次元CADで設計した。彼らは、新しい三次元製品情報付加規格の妥当性の検証および普及に貢献し、今後の設計分野の活躍が期待され、中央大学の名声向上にも大きく貢献した。
鈴 木 峻	理工学部 4年	スマートフォンやパソコンのデータの記憶媒体であるフラッシュメモリを高信頼化する革新的な技術を2つ提案した。まずフラッシュメモリで発生するエラーを検出する手法を提案し、次に検出したエラーを訂正する低密度パリティ検査符号を提案した。その結果、フラッシュメモリで許容できるエラー率が90%増大し、データを保持できる寿命(時間)を230%増大させることを実験により実証した。本技術は、電子デバイスの信頼性物理分野で世界で最も権威あるIEEE(米国電気電子学会)主催IRPSに採択され、発表を行う。IRPSでは世界トップレベルの企業・大学から発表が行われ、学部生が採択、発表をすることは極めて稀である。
川 上 洵	理工学部 4年	川上氏は都市環境学科において継続的に勉学に励み、優秀な成績を修めた。卒業研究においても、地盤補強技術に関する研究課題に精力的に取り組んでいる。卒業後は大学院に進学して自己研鑽に励むことを希望している。また、学業の他ハイキング部に所属し、その活動に積極的に参加するなど誠実で協調性に富む人柄であり、人格円満で継続的に努力する姿は他の学生の模範として高く評価される。
中 村 元 紀	理工学部 2年	物理学という学問は修得が困難で、志して入学した者の中にも途中で挫折する者も多い学問である。そんな中、大学の講義の内容の理解を超えて、自主ゼミという形で難しい物理学の教科書を読み進めるという積極的な学習姿勢を堅持している。周囲の学生も彼に触発されて物理学に対する真摯な思いを掻き立てられている。学部2年生でありながら大学院の講義に出席して聴講したばかりか、積極的に質疑応答にも参加した。近年まれにみる、物理学に対する熱意ある学生である。
阿 部 由 美 穂	総合政策学部 3年	平成29年度内閣府国際青年育成交流事業にドミニカ共和国への日本代表団として採用され、現地に派遣された。本事業は、日本と諸外国の青年との交流を通じて相互の友好と理解を促進し、国際協調の精神の涵養と国際協力の実践力の向上によって、国際社会で指導性を発揮できる青年の育成を目的としている。訪問国では、表敬訪問、現地青年との合宿ディスカッション、ホームステイ、日本文化紹介、国際協力活動等を行い、両国の理解と交流を深めることに従事した。帰国後においても、皇太子殿下ご臨席のもと、外国招聘青年と共に国際青年交流会議に参加し、コース別ディスカッションにおいて、各テーマに対する各国の状況や考え方を説明・共有し、一層の相互理解に努めた。
鈴 木 崇 允	総合政策学部 4年	インドネシア共和国外務省主催の「インドネシア文化芸術プログラム」に日本代表として選出され、他国の参加者とともにインドネシアの文化芸術について学んだ。また、プログラム閉会式では参加者の代表として総辞を述べた。
ボランティアセンター 公認学生団体 はまぎくのつばみ	総合政策学部 (学生部ボランティアセンター)	東日本震災被害の大きかった市町村の中で、東京からの距離が最も遠く、支援が届きにくい岩手宮古市での支援を現在も実施している。2017年夏季期間の活動はYahoo!募金の夏休み「学生ボランティア」被災地復興活動支援助成プログラムの助成を受けて、コミュニティ支援、学童保育支援を実施した。また、被災地の企業を訪問したうえで現地を知り、その商品を知ったうえで物産展を継続して実施し、被災地の風化防止と経済的支援に努めており、行政との連携も取れていることから対外的に高い評価を受けている。
ボランティアセンター 公認学生団体 面瀬学習支援	総合政策学部 (学生部ボランティアセンター)	宮城県気仙沼市面瀬地区の小中学生に向けた、学習支援(学習指導と体験型地域学習、創造的な自由遊び)を行っている。小学生たちは、震災後の環境の変化に影響を受けながらも、学生が毎年継続して出向いた結果、中学生になっても学生を頼って活動に遊びに来ている。2017年夏季期間の活動はYahoo!募金の夏休み「学生ボランティア」被災地復興活動支援助成プログラムの助成を受けて、市議会議員やNPOとの協働で活動を行っていた。現地の小・中学生と常に向き合い、将来に担い手であるボランティア活動が高い評価を受けている。

小島朋之 他 4 名	総合政策学部	第17回WEST論文研究発表会において、分科会「労働・雇用b」で論文題目「家族介護と仕事の両立」を発表し、行政実務家と専門家の2名による論文審査と発表審査の結果、各分科会で最も優れた論文に対して贈られる「分科会賞」を受賞した。同論文では高齢化により深刻化する介護離職の問題に焦点を当て、現行の介護福祉政策のうち有効な制度・政策を実証的に分析し、その結果に基づいて、企業の介護休業制度に関する説明義務化や地域サテライトケアの拡充、介護施設入居に関する金融商品の提案を行っており、本学の名声を大いに高める学術的な活動成果であると評価できる。
岩井拓海 (FLP環境プログラム 西川ゼミ)	法学部 4年	代表学生岩井氏は、FLP西川ゼミで3年間フィールドワークを実施し、その成果を「東京都内の河川等から分離される薬剤耐性菌～耐性菌とその分布～」にまとめ、一般社団法人環境情報科学センターが開催した第14回環境情報科学ポスターセッション学生の一部で発表した。多数の発表がある中、優秀ポスター発表として「事務局賞」を受賞し、高い評価を得た。文系学生という枠を超え、理系分野での学術発表で賞を与えられたことは、文理融合の学びを結実させた結果である。

第 19 回 法曹会賞

本賞は、中央大学法曹会が、毎年卒業する学生のうち、学業成績優秀または文化活動に顕著な功績を挙げた卒業生に対して授与するものです。

小 牧 俊	法学部 4年	在学4年次に平成29年度司法試験合格
春 山 堅 汰	法学部 4年	在学4年次に平成29年度司法試験合格
市 原 隆 一 郎	法学部 4年	在学4年次に平成29年度司法試験合格
山 本 侑	法学部 4年	在学4年次に平成29年度司法試験合格

第 32 回 南甲倶楽部賞

本賞は学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にて学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めると共に本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。(南甲倶楽部は実業界で活躍するOBが組織する団体)

村 杉 早 紀	法学部 4年	法学部卒業生の中で在学中の学業成績が優秀であり、かつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員及びゼミ生からの信頼も厚い。
植 田 夏 実	経済学部 4年	学長・学部長賞奨学金制度における学部長賞奨励学生にも採用され、学業成績が極めて優秀である。また、ゼミ活動においても海外実態調査等を含め活発に活動しており、学生の模範となるに相応しい。
梅 原 雄 太	商学部 4年	本年度商学部卒業生の中で学業成績が優秀であり、難関とされる公認会計士試験に在学中に見事合格した。
水 品 圭 汰	理工学部 4年	卒業研究においてAI(人工知能)を高速・低電力に実行する集積回路、メモリシステムの研究を行った。水品氏が提案した技術は、回路システム分野で最も権威あるIEEE(米国電気電子学会)主催ISCAS(International Symposium on Circuits and Systems)に論文「Layer-by-layer Adaptively Optimized ECC of NAND flash-based SSD Storing Convolutional Neural Network Weight for Scene Recognition」として採択され2018年5月にイタリア・フィレンツェで口頭発表を行う。発表する学生の多くは博士課程であり、学部生の論文が採択されることは極めて少ない。また、水品氏は実直な人柄で実行力に秀で、今後も精力的に研究に取り組む事が期待できる。
永 原 響	文学部 4年	卒業論文「土佐日記主題論」は、言語の虚構性という本質を踏まえた上で、独自の視点から詳細な表現分析を通し、作品の主題に迫る優れたものであると評価されています。言葉の力によってその場所がないものを現出させる土佐日記の独自の世界構築を、「水」に関する表現の分析によってみごとに析出しました。また、勉学に限らず、合格者見学会キャンパスツアーにおいては、学生生活についての体験談を語り、入学希望者の相談に応じるなど、専攻の魅力を伝えることにも尽力していました。卒業後は本学で学んだことを活かし、社会に貢献してくれる有意な人材になると確信できる。
野 田 琴 実	総合政策学部 4年	中川恭明教授の事例研究を履修していた学生で、個人研究・卒業論文の執筆、グループワーク等の発表、ゼミ合宿の準備・報告書の作成等、学業とゼミ活動全般に熱心に取り組む、優秀な成績を残した。2年次の専門演習時から言語と人間と社会との関係を研究する社会言語学に興味を持っており、文献購読の際にも学問的知見を今ここにいる自分の問題として位置づけ、捉え直し、発展させる能力を十分に持ち合わせている。それは、とりわけ地域と言語との関係を研究テーマに据え、地域方言が標準語と対立するものではなく、標準語と並立して、場所や相手、話者の思い等によって使い分けられるものとして、政府の方針や一般の人々の認識も変化している現状を踏まえつつ、東日本大震災において方言スローガンが使用されるなど、方言とアイデンティティに関連した事例も見られたことから、方言を「資源」として捉え、卒業論文「地域活性・復興事業における方言が持つ可能性—日本各地の事例を基にした熊本県への提言」を提出した。論文執筆にあたり、3年次の事例研究開始時から予備調査として自分の寮の学生にアンケートや聞き取り調査を行うなど、文献から得た知識を補うなどの工夫をし、本調査では現代の若者、その中でも一種の方言ブームの牽引役ともいわれる若い女性へのアンケート調査により、音声学のアプローチに基づいた言語印象と言語的評価、観光価値、情緒価値との相関を明らかにした。次いで、熊本県と福岡県の観光パンフレットの比較、NHKの「全国県民意識調査」等により熊本県出身者の熊本方言(弁)への愛着の強さが今後の地域復興の重要な要素の一つであるという結論に達した。この論文は、学術的にも大変優れたものであると評価できる。就職先は、独立行政法人 国際観光振興機構(通称「日本政府観光局(JNTO)」)であり、人となりと、人と地域をつなぐ言葉の重要性を中心に据えて仕事に取り組むものと確信しており、学力は言うに及ばず、人との関係においても礼儀正しく相手を思いやる優しさがあり併せて自己には厳しく謙虚でもある。

第 13 回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

李 瑞 鵬	大学院総合政策研究科 博士課程前期課程 総合政策専攻	中国からの留学生として総合政策研究科で2年間学修し、その成績は最優秀といえる。執筆した修士論文「インターネット時代におけるフェイクニュースに関する研究—中国の新聞・雑誌メディアが関係した事例を中心に—」では、インターネット時代に個人が発信できるようになったことで生じているメリットとデメリットについて、日本と中国を比較する最先端の研究結果をまとめ上げた。今後も研究を継続し、さらに日中両国で学術的な成果を上げていくことが期待される。
-------	----------------------------------	--

第 4 回 東京白門ライオンズクラブ法務研究科学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、将来法曹として活躍が期待される人材の育成に資することを目的として、社会実務等の経験を有して法務研究科に入学し、在学中の業績が顕著と認められた学生に授与するものです。

木 邑 友 希	大学院法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	社会人学生として未修者コースに入学し極めて優秀な成績を収めている学生である。長くテレビ山口報道制作部にアナウンサー・記者として、TBSテレビで取材キャスター・記者として勤務し、その間に刑事事件の取材を契機として山口刑務所において刑務所内ラジオ番組でパーソナリティを勤めるなどの矯正支援活動をしてきた有為の人材である。目的意識が明確であり、真摯に勉学に取り組み、一般の学生にも好影響を与えている。
---------	-----------------------------	---